

■佐藤尚中 医家。{順天堂}第2代。日本医界の最高の地位に就くも、身を引き、{東京順天堂}を開設した。

さとうたかなか

日本外史・・・1827＝ 下総國小見川で、_藩医山口甫倦の次男として生まれる。

・・・・・・1836＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝10歳：

少年のとき江戸にあって寺門静軒，

ついで安藤文沢に教えをうけた。

天保改革弾圧1842＝15歳：文沢の勧めで、_和田泰然の塾に入って、蘭方外科の修得に勉め，

順天堂始・・・1843＝16歳：_泰然が佐倉藩主に招かれ、佐藤姓となって、順天堂を開くのに従って、その地に移り，

阿部正弘首座1845＝18歳：

非常な勉強家であり、また能筆の人で、順天堂で頭角を現わして、

ペリー来航・1853＝26歳：ついに_泰然の養子となり，

開国開港・・・1854＝27歳：_佐倉藩に召抱えられる。

安政の大獄・1859＝32歳：この年、義理の甥の高和介石が入門し、高弟の1人となる。***泰然が隠居して家督を継ぎ、順天堂第2代の主となるとともに、佐倉藩医の地位も向上。**

桜田門外変・1860＝33歳：**オランダ海軍軍医ボンベに学ぶため長崎に留学したため、その間は泰然が心ならずも一時現役に復帰。**授業をうける日本人側の代表は泰然の実子松本順(良順)であったが、その義兄としてボンベの殊遇をうけ、また例外的にすぐれた日本の外科医としての実力が認められた。

生麦事件・・・1862＝35歳：_ボンベが帰国して佐倉に帰る。

8月18日政変 1863＝36歳：

薩摩藩士密航1865＝37歳：この年の順天堂門人録によると、北は松前から南は四国・九州にまで及ぶ門人の数は110名にのぼる。

薩長同盟・・・1866＝38歳：_藩の医政を大改革し、藩医はすべて洋方とし、順天堂の医学教育もボンベのやり方にならって一新した。**大政奉還・・・1867＝39歳：**妻が死去。高和介石を養子(佐藤進)とする。佐倉養生所を設けて、みずからその一等医師となり、藩の医事を総括。ストロマイヤーの外科書を訳し「砲瘦論」「外科医法」などを出版。

明治維新・・・1868＝40歳：戊辰戦争に官軍から呼び出しがきたが、尚中に代わって進が出征、白河の病院頭取として功績をあげた。佐倉養生所は閉鎖となり，

戊辰戦争終・1869＝41歳：進のドイツ留学直後、***明治政府の強い要請で、東京に新設された大学東校の大博士となり，**

初の日刊新聞1870＝42歳：_大典医を兼ね、さらに大学大丞となり、日本医界の最高の地位に就いたが，

廃藩置県・・・1871＝44歳：泰然が死去。_ドイツ人教師2名が来朝して医学教育の大改革を始めると、自らの能事終るとみて，

学問のすすめ1872＝45歳：_官界から身をひき，

明治6年政変 1873＝46歳：下谷練堀町に***私立病院{順天堂}を開く。**

佐賀の乱・・・1874＝47歳：隠居し、佐倉の順天堂は岡本道庵に譲る。

初の民間工場1875＝48歳：進が帰国したので、_湯島お茶の水に(今日の順天堂医院の始まりとなる)日本ではじめての大病院を建て、自らは内科を担当。開院した直後に咯血して重症となったが、幸いかなり回復して、下谷の根岸に居を構え、また順天堂にも出勤した。熱海の旅館にしばしば滞在して保養し、ニーマイヤー内科書を翻訳，

沖縄県編入・1879＝52歳：_「済衆録」として刊行開始し，

明治14年政変1881＝54歳：

新体詩抄・・・1882＝55歳：_没した。